

被災者の皆さまに心から  
お見舞い申し上げます。

発行 連合災害対策救援本部

電話 03-5295-0539 FAX 03-5295-0547 [soshiki@sv.rengo-net.or.jp](mailto:soshiki@sv.rengo-net.or.jp)  
日本労働組合総連合会(連合) <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

## 1. 連合救援ボランティア第1陣 本日活動終了

連合救援ボランティア隊の第1陣は、本日被災地での1週間の活動を終え帰途につき、明朝6時頃連合本部に到着する予定です(福島チームは明朝福島を出発し、連合本部到着は11時頃を予定)。

第1陣約150名は、3月31日に、宮古、東和(花巻市)、仙台、福島の拠点に分かれ、翌4月1日からそれぞれの被災地での本格的なボランティア活動を開始しました。廃校となった小学校校舎、地方連合会が入る会館の会議室などに寝泊まりし、毎朝車で被災現場まで移動しました。気仙沼周辺を担当するチームは、近辺に宿泊場所が確保できなかったため、一関拠点から片道2時間の道のりを毎日通いました。

現場では、浸水家屋からの泥出し、庭の漂流物の撤去、屋根瓦の撤去、流された冷凍車の荷物(冷凍食品)の運び出し、支援物資(衣類)の仕分け、発泡スチロールの回収・搬出、仮設風呂の管理、商店のカーペットはがしなど、様々な活動を行ってきました。



家財の道具の片付け(多賀城)



散乱した発泡スチロールの回収(相馬)



社会福祉協議会で作業説明をうける  
連合ボランティア(宮古)



浸水した民家の床板はがす連合ボランティア。床板  
をはずした後、床下からの泥出しを行う。(宮古)

ボランティアの皆さんの生の声をいくつか紹介します。

- 「われわれが受け持った家屋は、お父さんが亡くなり男手が必要な世帯。人では運べない漂流物は自衛隊が撤去したものの、ピアノなど運び出しには大量動員して作業しました。大変感謝され、意義のある活動でした」
- 「(支援物資は)古着が多く、このままでは使えないモノも多い。できるだけ新品を送ってほしい。地元の高校生が多く手伝いにきているが、人手が不足している」
- 「作業の合間にただ被災者の皆さんの話を聞いているだけでも、人の心がつながっていく様子を感じた」
- 「作業終了後、家主から『一緒に記念写真を』と頼まれた。写真を送るので住所を聞かれ、『一年後に復興の状況を見てほしい』といわれました」

## 2. ボランティア第2陣 4月8日出発 いわき市にも派遣

連合本部は、4月8日午前、宮古、東和、仙台、一関、福島の拠点に向けて、連合救援ボランティアの第2陣を派遣します。加えて、今回から新たに設置された会津拠点にも第1陣を派遣し、いわき市周辺での活動を開始します。

## 3. つながろう NIPPON



連合本部が入る総評会館の壁面を使っでの広告(横 9.0m 縦 2.6m)では、ユニオニオンが、連合対策救援本部の合い言葉「つなごろう NIPPON」をアピールしています。